

やっぱり豚熱ウイルスの畜舎内**侵入阻止**が最後の砦！第2弾

令和3年度「かほだよりNo.8(9月21日発行)」でお知らせしたとおり、**全ての農場に豚熱ウイルスに対する感染防御が出来ない豚が一定数存在**します。

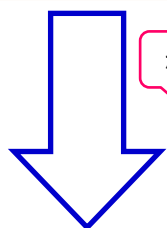
効果的な消毒方法により、豚熱ウイルスの畜舎内への侵入を阻止しましょう！

消毒薬の選定と使用方法の留意点

市販の動物用消毒薬は豚熱ウイルスの不活化に有効です。

しか～し

- 反応時間**:1分では、効果は低い→**作用時間は長めに！**
 - 反応温度**:5℃では、効果が下がるものが多い→**冬場は要注意！**
 - 糞便等有機物の影響**:糞便等が混入すると、効果が下がるものが多い→**場面に応じて濃度調整！**
- * 反応時間や環境要因を考慮し、適切な消毒薬の選択と作業手順による消毒の継続的な実行が必要!!



なので

**踏み込み消毒槽利用から
長靴交換へシフトしましょう**

別添の**資料1～3**を参考にして下さい。



資料1：使用対象別

代表的な消毒薬と使用方法・・・豚熱ウイルスに効果のある代表的な消毒薬と使用方法を整理しました。

資料2：消毒薬の種類と主な製品・・・消毒薬の種類ごとに主な製品を整理しました。

資料3：製品別の有効な希釈濃度・・・迫田義博教授(北海道大学)らの実験結果を基に消毒薬の有効な希釈濃度を整理しました。

当面のお願い

ワクチンだけでは防御出来ないため、飼養衛生管理基準の遵守をお願いするとともに、次の衛生対策の徹底をお願いします。

○農場周辺のウイルスが雨水とともに農場敷地内に流入する可能性があります。雨が降ったら畜舎周辺への石灰散布を検討して下さい。

○肥育豚の中には発症しない感染豚が存在する可能性は否定できません。肥育豚の管理とワクチン接種前の豚の管理が交差しないようにお願いします。

これからの季節は気温の低下とともに消毒薬の効果も低下します。
**畜舎ごとに長靴及び衣類を変えることが原則ですが、
適切な消毒により畜舎内への豚熱ウイルスの侵入リスクの低減を！**